

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700117-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」
 入居者、ご家族様にとってADLの変化により環境を変える事が心配だと思われる方も少なくないと感じます。グループホーム楓では車椅子になっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化に伴って環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で、安心して過ごしていただくことができます。四季を感じる空間.....モダンで開放的な空間、農園、庭園など敷地内に居ながら四季を存分に楽しんでいただくことができます。
 ご家族様とのスカイプ通話可能.....整ったインターネット環境により、ご家族様、遠方に住まわっているお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話をさせていただくことが可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から3年、チームワークこそが介護現場のすべての代表者の信念のもと、パソコン・スマートフォンなど最新機器を利用して体制作りを図ってきた。理念の振り返りやケアプランの確認・記入、フィードバックにも端末を利用し、さらに情報の共有及び施設長や管理者、職員間の意思疎通が現場と端末の両方で行われ、職員の責任感が深まってきている。また利用者や家族に対し日々の暮らしの安心と笑いに満ちた生活の支援が出来ており、スカイプによるテレビ電話で利用者と家族が顔や風景を見て会話できる新しい試みも取り入れている。地域住民とは、自治会を通しての付き合いや相互の行事への参加、ボランティアの受入れ、幼稚園とのふれあいなどで交流を図っている。利用者の重度化に伴い終末期対応にも力を入れ、段階ごとの家族への説明や職員の教育に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。	職員が携帯する端末のトップ画面に『理念』を設定し、共有を図っている。また玄関先に理念を掲げ訪問者に目に付くようにしてあり、さらにホームページに理念の説明やそれに伴う基本方針を掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に呼んでいただく、地域ボランティアさんの協力であったり、施設行事への参加していただけるなど、できるだけ地域の方達との交流の機会を多く設けています。	25年度の目標達成計画に地域との繋がりを立て、地域住民との交流を重視したプログラムに取り組んでいる。市が開催した事例発表に積極的に参加し、認知症サポーター養成研修など、多様な活動に力を注いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として施設を解放する他に、地域の認知症サポーターとして講習を開催させていただき地域貢献できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う事で、入居者様や地域の方々の方々の要望をお聞きしたのち、サービスに落とし込める様にスタッフ会議などで検討しております。	あらかじめ利用者や家族を含めた参加者に協議事項を知らせてあり、会議では活発な意見が出されている。会議録には委員からの質問にそれぞれの回答や検討の記録がしており、運営に反映した項目も記してある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、認知症サポーター講習など、市町村担当者と相談して一緒に行う事で、より良い関係を築けるよう努めております。	市とはホーム設立時から連携を取っており、以降も頻りに市役所と協議を重ねている。平成26年度にグループホーム「椿」の開設を計画しており、行政との行き来も増え助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。	拘束についての職員研修会を行い、理解を深めている。危険がある状況で拘束もやむを得ないと判断される場合は、家族に対しての説明と同意を確実にし、期間や目標を定めている。記録を詳細に残しており、会議では拘束終了に向け検討もされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時勉強会を行い、関係者と話し合えるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご説明し、その後入所時に再度ご不明な点などをご説明させていただき、ご了承いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時から家族会などの行事の時などで要望をお聞きしたものは、同月の会議に落とし込み、より満足して生活していたできるよう努めております。	家族は、利用者が“安心して楽しく暮らす”という理念に沿った支援を受け、明るく清潔な空間で伸び伸びと日々を送っていることに満足している。家族会が出来ており、そこからの意見も尊重している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良いサービスを提供できるよう、毎月行われる定例会議に代表者も参加し、一般職員との意見交換を行っております。	管理者は職員の気づきや提案を大切に考えており、パソコンやスマートフォンを使ってメッセージの交換をし瞬時に意見を汲み上げています。ミーティング時に出された意見は共有され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に入る事で、スタッフの実情をより早く把握し検討する事で、条件環境整備に落とし込んでいけるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当をもって、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症への理解などの研修に参加し、質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、スタッフ交流会を設け、意見交換できる場を設けるなどを行う事で外部との繋がりを持つ他、お互い良い刺激になるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも希望に添え安心して入居いただけるよう務めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも日ごろの密な連絡や家族会などで、ご本人様への思いなどをお聞きし、希望にそえるよう務めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、自宅で過ごされる機会であったり、面会に来ていただくなど、今までの人間関係が切れいない様務めております。	外出困難な利用者も、スカイプを利用した家族とのテレビ電話や自宅近辺の様子や満開の桜、地域の祭り等、大きなテレビ画面で映し出されるのを見て楽しんでいる。訪問者には手厚い「おもてなし」を欠かさない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様方の関係性を把握し、それぞれに合わせた環境を整備させていただき、個にならないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もできるかぎりのフォロー体制をとり、その後の相談援助などに努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。	職員は利用者に対し、優しく気持ちを問うような言葉かけや接し方をしている。誕生日に家族を呼んだり、喫茶店に出かけるなど、楽しみを作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努める他、毎日の心身状態を把握検討を行い、無理の無いように安心して過ごしていただけるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当者会議から、随時話し合いの時間を持つ事で、ご本人様に合った介護計画を作るよう努めております。	介護記録は、モニタリング、評価、見直しとつながり、見やすく記入しやすい。担当者会議は本人、家族、看護師、ケアマネージャーも参加し行われている。	利用者の生活歴や個性、興味のあることなどのアセスメントを積み重ね、一人ひとりの思いの把握にさらに努められることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の変化に対応できるよう、毎日朝礼で情報共有を行い、即時対応できる様務めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して随時、ご本人様ご家族様と話し合いを持ち、柔軟な対応ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活により近い環境で過ごしていただけるよう、ご本人様の意向を大切にできるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師(主治医)との密な連携をとる事で、適切な医療サポートを受けられるよう支援させていただいております。	入居前からのかかりつけ医への受診の際は、ホームからの手紙を添えて家族同行で行い、受診後は口頭で報告を受けている。月2回協力医の訪問があり、夜間や終末時の対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフとして看護職がおりますので、日々情報伝達相談で、早急な場合でも対応可能な様に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問、ソーシャルワーカーとの連絡をとる事で、情報伝達を密にできるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様、医師、看護師、介護士で話し合いを行い、今後の方向性を確認。ご本人様とご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。	入居時に重度化指針の説明を行い、希望を尋ね、同時にホームで可能な医療行為の説明を行っている。時期が来たら医師を含め関係者で話し合い、看取り同意書での意思確認を行っている。丁寧な見送りを心がけ、職員へのフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、看護師より指導、実技講習などを行う事で実践力向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、緊急災害時対応ができるよう徹底しております。防災訓練に地域の方に参加していただき、協力を得られるよう努めております。	年2回消火訓練や避難訓練が行われており、緊急連絡網には地域住民も加わっている。夜間を想定した訓練では時間を計り、改善点の洗い出しをしている。冷凍食品を前倒しに発注し、備蓄を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の心身態観察を行い、その時々に応じた対応ができるよう支援させていただいております。	職員は丁寧な優しい声かけを心がけ、否定や決め付けをせず、利用者が自己決定できるよう工夫しながら対応している。排泄時には扉の外で待ったり見えないところに立つなど、配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つご本人様に声かけさせていただき、自己決定できるよう支援させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムで、生活していただけるようご本人様のペースを大切に支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望をお聞きし、ご本人様に選んでいただくなど、その人らしく生活できるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割を持っていただき、毎日楽しく生活していただけるよう支援させていただいております。	食事前には口腔体操を行い、利用者はテーブル拭きなど手伝っている。畑で作る野菜を使っの副食作りは、利用者にとって楽しみになっている。朝夕は、職員も同じものを、語らいながら食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握し、随時それぞれに応じたバランス食を提供できるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行う事で、口腔内の状態把握ができるよう支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、できるかぎりトイレでの排泄していただけるよう支援させていただいております。	排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導している。また室内を歩いて運動したり、立ち上がり訓練や歌いながら体操するなど、規則的な排泄が出来るよう支援している。水分補給にも気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、個々に応じた予防ができるよう支援させていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決めてありますが、随時ご本人様にお聞きし、希望に沿えるよう支援させていただいております。	右麻痺用、左麻痺用、寝台浴の3つがあり、窓からの景色を楽しみながら入浴できる。冬は脱衣所を暖め、さらに季節の菖蒲湯を用意するなど、入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあり、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時看護師より情報伝達がある他、朝礼にて周知徹底し介護スタッフ全員症状把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った趣味嗜好で毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を定期的に行う他、ご家族様の協力を得て、ご本人様が外出外泊などでもできるよう支援させていただいております。	誕生日にケーキを食べに出かけたり、近くの公園で行われる地域の夏祭りに参加したりなど、外出を支援している。またスーパーと一緒に買い物に出向くなど、個別にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人様とご家族様に任せております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行い、離れているご家族と顔を見て話していただけるよう整備させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に居ながら四季を感じられる開放的な空間で、環境整備も徹底し、入居者の方が常に気持ちよく過ごしていただけるよう努めております。	天井が高く、明るく広々とした共用空間には随所にソファやベンチが置かれ、利用者は思い思いに休むことが出来る。車椅子で出ることが出来るベランダからも、四季折々の風景を楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様達の関係性を理解し、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人様と、ご家族様の意向で環境整備させていただけるよう支援させていただいております。	白い壁のモダンな部屋には、使い慣れた筆筒、位牌、家族の写真など思い思いの物が持ち込まれ、その人らしさを醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっていて、菜園や庭園などもあり、それぞれに合った楽しみを見つけて、毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosyoCd=2191700117-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成26年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」
 入居者、ご家族様にとってADLの変化により環境を変える事が心配だと思われる方も少なくないと感じます。グループホーム楓では車椅子になっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化に伴って環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で、安心して過ごしていただくことができます。四季を感じる空間.....モダンで開放的な空間、農園、庭園など敷地内に居ながら四季を存分に楽しんでいただくことができます。
 ご家族様とのスカイプ通話可能.....整ったインターネット環境により、ご家族様、遠方に住まわっているお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話をさせていただくことが可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に呼んでいただき、地域ボランティアさんの協力であったり、施設行事への参加していただけるなど、できるだけ地域の方達との交流の機会を多く設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として施設を解放する他に、地域の認知症サポーターとして講習を開催させていただき地域貢献できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う事で、入居者様や地域の方々の要望をお聞きしたのち、サービスに落とし込める様にスタッフ会議などで検討しております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、認知症サポーター講習など、市町村担当者と相談して一緒に行う事で、より良い関係を築けるよう努めております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時勉強会を行い、関係者と話し合えるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご説明し、その後入所時に再度ご不明な点などをご説明させていただき、ご了承いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時から家族会などの行事のなどで要望をお聞きしたものは、同月の会議に落とし込み、より満足して生活していただけるよう努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良いサービスを提供できるよう、毎月行われる定例会議に代表者も参加し、一般職員との意見交換を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に入る事で、スタッフの実情をより早く把握し検討する事で、条件環境整備に落とし込んでいけるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当をもって、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症への理解などの研修に参加し、質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、スタッフ交流会を設け、意見交換できる場を設けるなどを行う事で外部との繋がりを持つ他、お互い良い刺激になるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも希望に添え安心して入居いただけるよう務めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも日ごろの密な連絡や家族会などで、ご本人様への思いなどをお聞きし、希望にそえるよう務めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、自宅で過ごされる機会であったり、面会に来ていただくなど、今までの人間関係が切れいない様務めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様方の関係性を把握し、それぞれに合わせた環境を整備させていただき、個にならないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後もできるかぎりのフォロー体制をとり、その後の相談援助などに努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努める他、毎日の心身状態を把握検討を行い、無理の無いように安心して過ごしていただけるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当者会議から、随時話し合いの時間を持つ事で、ご本人様に合った介護計画を作るよう努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の変化に対応できるよう、毎日朝礼で情報共有を行い、即時対応できる様務めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して随時、ご本人様ご家族様と話し合いを持ち、柔軟な対応ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活により近い環境で過ごしていただけるよう、ご本人様の意向を大切にできるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師(主治医)との密な連携をとる事で、適切な医療サポートを受けられるよう支援させていただいております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフとして看護職がおりますので、日々情報伝達相談で、早急な場合でも対応可能な様に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問、ソーシャルワーカーとの連絡をとる事で、情報伝達を密にできるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様、医師、看護師、介護士で話し合いを行い、今後の方向性を確認。ご本人様とご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、看護師より指導、実技講習などを行う事で実践力向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、緊急災害時対応ができるよう徹底しております。防災訓練に地域の方に参加していただき、協力を得られるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の心身態観察を行い、その時々に応じた対応ができるよう支援させていただいております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つご本人様に声かけさせていただき、自己決定できるよう支援させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムで、生活していただけるようご本人様のペースを大切に支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	それぞれの希望をお聞きし、ご本人様に選んでいただくなど、その人らしく生活できるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割を持っていただき、毎日楽しく生活していただけるよう支援させていただいております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握し、随時それぞれに応じたバランス食を提供できるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行う事で、口腔内の状態把握ができるよう支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、できのぎりトイレでの排泄していただけるよう支援させていただきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、個々に応じた予防ができるよう支援させていただきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決めてありますが、随時ご本人様にお聞きし、希望に沿えるよう支援させていただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあり、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時看護師より情報伝達がある他、朝礼にて周知徹底し介護スタッフ全員症状把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った趣味嗜好で毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出する機会を定期的に行う他、ご家族様の協力を得て、ご本人様が外出外泊などできるよう支援させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人様とご家族様に任せております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行い、離れているご家族と顔を見て話していただけるよう整備させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に居ながら四季を感じられる開放的な空間で、それぞれに安心して過ごしいただけるよう環境整備させていただいております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様達の関係性を理解し、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人様と、ご家族様の意向で環境整備させていただけるよう支援させていただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっていて、菜園や庭園などもあり、それぞれに合った楽しみを見つけ、毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		